



歴史や偉人



「つあり」の名前は どこから？

正確には、いつから「つあり」と呼ばれたかは分かりません。一説には、元々「ツウ」と呼ばれていたものを、後にツアリと読み替えたと言われています。

「津有」が地名として 使われていった

古い文献によれば、この地域は「津有郷」であったそうです。1597年（慶長2）に作成された越後国頸城郡絵図には、津有郷の全域が描かれています。左の古絵図は越後国頸城郡絵図を書き写したものです。

津有郷の村々の記録

津有郷内にある村々に関する記述で、1597年（慶長2）以降の古文書・古絵図から、地図上に記してみました。

こちらから▶



出典：慶長二年越後国絵図
(新潟市立新津図書館所蔵)

津有郷から津有村、そして高田市へ

津有村は、1889年（明治22）に多くの村々が合併してできました。合併の理由は「本村ハ地勢平坦交通至便民情風俗相同シク」（この村は土地が平らで、交通の便もよく、人々の暮らし方や習慣は同じである）とされています。村名の由来は、この地が津有郷に属していたからです。

その後、津有村は人口6,700人の大きな村になりましたが、1954年（昭和29）に高田市から合併の申し入れがあり、翌年から高田市となりました。

それまでの間に様々な事件が起こり、また優秀な人材が大勢輩出されています。

スケープ！本当にあった津有の大ニュース



農民の反乱！【越後頸城質地騒動】

1722年、幕府の「流地禁止令」の扱いを巡り、津有の村々で騒動が広がり、高田藩は、農民に対して獄門、磔、遠島など重い処分を下しました。



今も昔も地面は揺れる！【宝曆の大地震】

1751年、マグニチュード7クラスの地震発生。戸野目では、地震の影響から火災が発生。20軒ほどが焼失し、10数名の死者が出たという記録があります。

時代を切り開いた偉人たち



中村 三代太郎
(1864～1946)
上雲寺小学校初代校長、
38年間勤務



池塘 眇市郎
(1870～1944)
産業組合創設と
津有繩の奨励



篠原 こうじ
耕治
(1893～1979)
自動もみすり機の発明



柳沢 謙
(1907～1982)
医学博士
国立予防衛生研究所所長
世界保健機関(WHO)総会日本代表
結核予防の功績



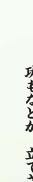
小学校の歴史と先人の努力



戸野目小学校



上雲寺小学校



戸野目上雲寺両小学校
校歌



上雲寺小学校

四
学びの道は 日本海
渡づばなどか
人の精神は 春日山

紫とおく 震ませて
土肥え水の 利を得れば
野は萬葉の 目もはるに
なびく 黄金の 稲の波

(中略)

一
頸城平の真ただ中
青垣巡る山脈を

功などか
史に読み得し
立てるらん

渡づばなどか
人の精神は 春日山

紫とおく 震ませて
土肥え水の 利を得れば
野は萬葉の 目もはるに
なびく 黄金の 稲の波



現在、両校ともに創立150周年の節目にあり、長い歴史を刻み続けています。

戸野目小学校は、1873年（明治6）に戸野目の蓮休寺で授業が始まりました。

保阪貞吉氏は、新校舎建設や教師の確保に私財を投じるなど、多大な尽力をされました。

上雲寺小学校は、1874年（明治7）に下富川で開校しました。初代校長の中村三代太郎先生は、38年間勤務され学校の基礎を固められました。

長い歴史は、先人の努力の成果と受け止めるべきでしょう。

